



全二部共同会議が結成

—スト権の確立も決まる—

11日 議長に本間君を選出

十一日午後六時から駿河台本館九号館九一講教室で、約二〇〇名の学生の参加のもとに全二部共同会議結成大会が開かれた。

この日、議長団を選出した後、各学部・サークル・寮の各闘争案からこれまでの闘争過程、情況の報告がなされた。この中で考古学共同会議は小川町校舎を大学側が使用していることに強い抗議を表

明し、撤回し、これを自分達の手に取り戻すことを宣言した。

この日の参加者の拍手で確立することに対して会場から不満の声が聞かれ、「このスト権を確立しても、それは形式的であり、実体がついて行かない」と思う。それを知りながら行なうのは矛盾しないか」という発言がなされた。これに対して本間学苑事務局長は「スト権を確立するか否かは問題ではなくして、闘争者がどう闘うかの問題である」と述べたが結局、スト権を拍手をもって承

最後に、全二部共同会議の組織形態を、議長・副議長・書記長の三役のもとに、各学部・サークル・寮から各二名の構成メンバーによる書記局をおくことが決定され役員人事に移った。

人事は立候補、推薦によって行なわれ、議長には本間展豪(学苑会事務局長(文四))と齋藤雅章(文三)の両君、副議長には中島恒勝君(商二)、書記長には炭谷久雄(学苑会委員長・法四)と上森光一郎(文三)の両君がそれぞれ推薦・立候補した。投票の結果議長は二〇対六七で本間君が副議長は信任九三、不信任七七で中島君が信任され、書記長は二〇八対六二で上森君がそれぞれ選出された。

終了後、約一〇〇人が本校前をジグザグデモを行ない、午後十時過ぎ解散した。

上森光一郎二部共同会議書記長談われわれが現在闘いつつある明大闘争は、東大・日大闘争の地平を切り開くものとして設定されている。観念的な学生運動から社会的存在としての学生運動への転換が渴望されているのだ。セクトをのりこえた形で運動を展開していかなければならぬ。